

「大楽毛地区義務教育学校開校準備協議会」校章選定にあたっての回答結果（件数）

No.	校章について	件数
①	現大楽毛小学校の校章に、現大楽毛中学校の校章にあるペガソス（天馬）の羽と合体したものを使用するのがよい	11
②	公募を実施するのがよい	3
③	新たに校章のデザイン案を専門家等に依頼するのがよい	0
④	現大楽毛小学校の校章を引き継いで使用するのがよい	3
⑤	その他	0
	合計	17

※参考

【現大楽毛小学校 校章】

位置することを示す。
校章には、スズランのほか、校名の「大楽毛」がアレンジして使われ、また、三本のペンが使われている。スズランは大楽毛の地域性を、ペンは文化日本を表す。
全体として、ペンの表す日本の文化を身につけ、地域の花であるスズランの純白の清らかさに大きな理想を育み、「楽毛」を包む「大」のアレンジが描く円が、未来に向け、世界の子どもと手をつなぐという願いが込められている。
また、この校章は彩色すると大楽毛の地域性を見事に表している。「大楽毛」部分が緑、スズランが銀色、アレンジした「大」の字が囲む部分は灰色。かつての大楽毛は砂丘の周りにスズランが群生していたとのことで、灰色（砂）を緑（草原＝スズランの群生）が囲む配図は砂丘に群生するスズランの様子を表している。



校章とその由来

校章は昭和二十五年七月十四日、当時の
高橋信一校長、須藤歳雄教諭、三浦幹雄教諭の三人によるデザインで作成、制定された。
大楽毛はアイヌ語の地名に漢字を置き換えたもの。「オタ」が砂「シケ」が中央の意味。つまり、かつて白糠の石炭岬から知人岬まで続いていた砂丘のちようど真ん中に

【現大楽毛中学校 校章】



校章と由来

中は中学校で◎は剣、くしろの意、中央の点はオタノシケ（砂浜の中央）を象徴している。より高く、より自由に、よりたくましくを念願してデザインされたものでスクールカラーはブルーである。
（昭和五三年度 学校要覧）
昭和五十三年四月一日制定
考案者 池田博美氏
デザイン 大森正明氏
校訓よりペガソス（天馬）の羽を外側に配し空高く天空を翔る可能性への挑戦を表す。その内側は、泉を掘る跡で勤労を、星は剣路市の市章であり、北西に巍然として輝く理想（真・善・美・聖・健）を表す。

【現小学校の校章と現中学校の校章の合成版（色なし）】



【現小学校の校章と現中学校の校章の合成版（色あり）】

